

事 項	二黄卵多発鶏に二黄卵を多発させる飼料給与法		
ね ら い	<p>二黄卵は通常卵の1.5～1.7倍の価格で売れるが、その発生頻度が極めて低いことから、二黄卵を多発する飼養管理技術が求められている。</p> <p>このたび、二黄卵多発鶏で性成熟日齢の調整等に利用されている初産時絶食を実施したところ、全産卵数に対する二黄卵発生比率を高めることが認められたので参考に供する。</p>		
指 導 参 考 内 容	<p>1 初産時絶食の効果</p> <p>(1) 通常の二黄卵多発鶏の50%産卵日齢は151日齢、産卵数は60.7%、二黄卵発生比率は19.3%である。</p> <p>(2) 初産時絶食を実施すると、50%産卵日齢は絶食を行わなかった通常鶏に比べ約16日遅れるが、産卵ピークが高くなるとともに、その後の産卵率及び二黄卵発生比率は2～10ポイント高く推移する。</p> <p>(3) 産卵全期間の産卵率は約2ポイント、二黄卵発生比率は約5ポイント高くなる。</p> <p>2 二黄卵多発のための飼料給与法</p> <p>(1) 初産時絶食は5%産卵に達した翌日から、絶食前体重の25%減量を目標として実施する。なお、絶食期間は概ね7～10日間である。</p> <p>(2) 絶食後の飼料は、粗蛋白質含量が日本飼養標準値(15%)の通常飼料を給与する。</p>		
期待される効果	<p>本方法を採用することにより、年間に取得できる二黄卵数は1羽当たり13個(絶食区産卵率0.623×同二黄卵発生比率0.246×365日－通常区産卵率0.607×同二黄卵発生比率0.193×365日)増加し、販売額では1羽当たり約280円(13個×@12.5円×1.7倍)、2000羽飼育すると56万円の増収となる。</p>		
利用上の注意事項	<p>1 絶食中は体重が減少するが、その程度は個体、季節、鶏舎環境等によって違うので、鶏群の観察を怠らず25%減量前でも斃死鶏が出たら直ちに中止する。</p> <p>2 絶食後の飼料給与は食滞を防ぐため1日目30g/羽、2日目60g/羽、3日目90g/羽と徐々に給与量を増やし、4日目から自由摂取させる。</p>		
担 当	青森県畜産試験場 五戸支場	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成10年度 青森県畜産試験場試験研究成績書		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 供試鶏群の5%産卵及び絶食年月日

年次	孵化 年月日	5%産卵		絶食開始		絶食終了		絶食期間
		年月日	日齢	年月日	日齢	年月日	日齢	
1995	95/07/05	95/11/22	140	95/11/24	142	95/12/01	149	8
1996	96/07/17	96/11/25	131	96/11/26	132	96/12/04	140	9

表2 絶食前後の体重

年次	絶食開始時体重 (A)	絶食終了時体重 (B)	体重減少量 (A-B)	体重減少率 (A-B) / A
1995	1,488 g	1,161 g	327 g	22.0%
1996	1,538	1,087	451	29.5

表3 試験要因別産卵成績

要因		50%産卵日齢 (日)	産卵率 (%)	二黄卵発生比率 (%)	飼料摂取量 (g / 日・羽)
年次	1995	162**	60.8	19.3**	119.0
	1996	156	62.1	24.7	120.3
飼料 給与法	絶食	167*	62.3	24.6**	119.9
	通常	151	60.7	19.3	119.4
粗蛋白 質含量	15.7%	159	61.6	21.8	119.6
	17.6%	159	61.4	22.2	119.6

\* :  $p < 0.05$ 、\*\* :  $p < 0.01$